

名古屋たちばな すてきなたてもの 南てらまち MAP

橋町は本町通り沿いやその周辺に黒漆喰塗りの商家が点在して残っています。「橋町」という名は尾張藩二代藩主徳川光友公が命名したと伝えられ、今も寺院や仏壇仏具店が集中する穴場スポットといわれています。2024年1月に実施したまちあるきワークショップをもとに、歴史的建造物をマップにしました。まちあるきにお役立てください。

編集：なごや歴史文化活用協議会
発行：名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター
☎052-678-2220
協力：特定非営利活動法人なごや歴史まちづくりの会
作図：渡邊義孝 Ver.1.1 / 2024.03



令和5年度
文化庁文化芸術振興費補助金
地域文化財総合活用推進事業

創業450年、江戸時代に紋幕・陣幕・太鼓などを商っていた屋号「幕屋傳兵衛」がルーツ。1992年から家具小売業に転業。左の町家は屋根の高い平入り商家。



マクデンと町家

ガレージマーケットとして生まれ、クラフト・雑貨・キッチンカーなどが集まる。豊かな緑のある境内で毎月28日に開催。



妙善寺（七面堂）

日蓮宗の寺院で本堂が方形造りでてらべんに宝珠を載せる。空襲でぎりぎり焼け残った。光友公の腫物平癒の為七面女神像を祀る。

右側的美濃佐商店（明治18=1885年）と左側の旧中村屋提灯店（大正4=1915年）ともに認定地域建造物資産。戦争中の昭和12（1937）年から道路拡幅のために解体・再建がなされ、切り縮められた中央部は3層に見える。瓦葺の庇はその時に付けられたもの。提灯店はファサードをモルタル塗りとし、看板建築のよう。三棟が連続し景観上も重要な建築のひとつ。



六浦本店の旧タバコ屋

1階コーナーのショーケース部に右読みで「タバコ」のタイル文字が残る。蛇の目棧瓦が陰翳を作り出している。



“兄弟蔵”

大切な商品や金品を保存するために防火性・耐久性を求めた土蔵はかつてはあちこちにあったが激減した。これは某個人住宅の蔵で黒漆喰に腰巻はナマコ壁、窓の観音扉は4段の掛子という豪華さ。棟の熨斗瓦は破格の16段積み。北側に小ぶりの蔵がもうひとつあり、まるで兄弟のように並び立つ。



4段掛子の窓扉

底を支える持ち送りの繰り型

不老園

両端に防火補壁を備えた2階建ての町家。大壁化し屋根も葺き替えられているが歴史的建造物のひとつ。



ヤマオカヤ

防火とともに格式を高めるデザインである卯建が両端に立ち上がる切妻平入りの町家。このエリアでは卯建付現存は唯一。下屋の熨斗瓦は市村に化粧され、本瓦葺きのむくり屋根と相まって美しい。



方杖のある元長屋

切妻平入りの長屋だった建物か。2階屋根の深い軒を支える斜めの方杖が印象的。一階の格子も繁につくられ、鋳金物にも気品がある。



切妻の町家の奥に片流れ屋根の建物がある。北側に高窓を設けるのは安定した光を取り入れて精密作業を行なう用途が多い。

三角屋根の加工場



安定した北側採光

切妻平入り2階建ての町家で、1階は全開口となる。両端には卯建が立ちあがり、棟の中心には2体の鍾馭さま。家具の展示場として活用されている。

楠木アウトレット・ショールーム

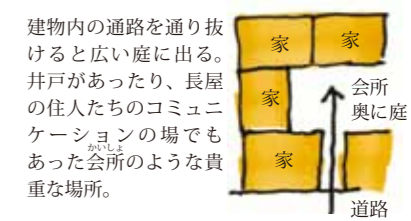


通路屋根裏に注目！
角材の垂木と割り竹木舞の取り合わせ



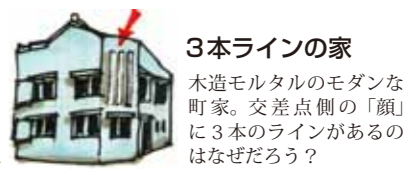
会所（または閑所）がある町家

建物内の通路を通り抜けると広い庭に出る。井戸があったり、長屋の住人たちのコミュニケーションの場でもあった会所のような貴重な場所。



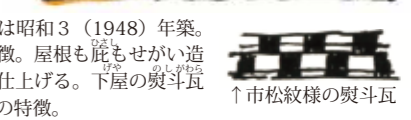
3本ラインの家

木造モルタルのモダンな町家。交差点側の「顔」に3本のラインがあるのはなぜだろう？



荒木芳風園

東別院の門前に建てられた茶舗。建物は昭和3（1948）年築。大母屋と切妻が直角に交わる屋根が特徴。屋根も庇もせかい造りの塗り籠めとし、腰部はナマコ壁で仕上げる。下屋の熨斗瓦と漆喰が市松紋様となるのは愛知周辺の特徴。



↑市松紋様の熨斗瓦



木造の事務所

隅切りされた2階建ての木造建築。装飾性はほとんど無いのにその姿はスマートで貫録がある。



RealStyle 認定



東別院東門及び土塀

本堂などが戦災で焼失した東別院だが、この東門は難を逃れた。江戸後期の作。門に直交する控え柱の上にも小さな切妻屋根を載せる「高麗門」の形式で、本柱に付く木鼻も立派。尾張名所図会にも記載されている。

国登録 国登録有形文化財
……文化財保護法にもとづく制度です
認定 名古屋市長認定地域建造物資産
……技術的・経済的支援が受けられます
国登録 名古屋市長登録地域建造物資産
……技術的支援が受けられます

©Y.Watanabe 2024



名古屋文化センター

芝居好きのわしが橋座を認めたんじゃ【徳川光友】



交差点の長屋

切妻平入りの長屋形式の店舗。屋根を見る限り相当古そうだ。右手（南側）の店舗は甘味処柴ふく。



毎月 8,18,28 日に開かれる東海地方最大級のマルシェ。親鸞上人の命日 28 日にちなんでスタート。食品、雑貨、テイクアウトなどのゾーンに分かれる。

【東別院暮らしの朝市】

“切妻下見板の家”

なんのてらもないシンプルな木造、でも凛とした気品がある。東別院関連の建物と伝えられる。東側は古渡城石垣の崖となる。



宗覚寺

↑本堂矢切の鳳凰



真宗大谷派の寺院。本堂は江戸末期の作。手入れされた庭と東西の門を貫く径の雰囲気は素晴らしく、本堂の大母屋屋根矢切（両表面）の装飾は秀逸。宮大工棟梁八代目伊藤平左衛門守富の特徴を示す。

